

A I時代のB I（ベーシックインカム）の必要性

1. 解決すべき課題

《我々が実現したい未来像》

経済問題の解決による『より開かれた』社会の実現。

- 「より開かれた」：一人一人の可能性が開放され、多くの選択肢が個人に対して与えられている社会。自分のために生きることができる社会。
- ・未来は、経済問題が解決されることにより、「労働に従事して賃金を得る生活」から「自らの活動に多くの選択肢を持てる」生活に。その際、失業しているか否かで政府からの給付が決定される現在の社会保障システムは無意味。
 - ・現代の日本社会は、分業が進み過ぎた上にゆとりがない。それが相互不信の自己責任社会や、人々の相互交流による新しいアイデアが生まれにくい社会を生んでいる。

2. 問題意識

A I時代の技術と未来像

- ・人間が行っている多くの労働がA Iに置き換わる時代へ（A Iが人間の知性を超える「シンギュラリティ」は少し先。今は「特化型人工知能」による業務の自動化のみ）。
- ・A Iや量子コンピューターなどの新技術により、「共有型経済を中心とする」限界費用ゼロ社会（製品やサービスが無料に）が到来。
- ・「楽観的な未来像」：
「生存競争と並び、常に人類の切迫した問題であった経済的な問題が解決すると、人類は誕生以来の目的を奪われる」（ケインズ）
⇒人は自らの「目的」を再考するようになる。
※「悲観的な未来像」（格差の拡大、失業の増加等）

今は「開かれた」社会か？

- ・市場経済システム内で評価される労働への従事により、賃金を得て生活することが労働観の大きな柱
⇒市場経済で評価されない活動（芸術など）を行いたいという個人の思いに対しては、現在の社会は開かれていない。
- ・「小さな政府」の弊害。行政が認定したニーズに対してのみ補助が支出される。すべての個人が国家の恩恵を感じにくい自己責任社会。

「より開かれた」社会の実現のために

⇒経済問題の解決と資源の分配の効率化・最適化。

⇒資本主義のインセンティブの維持＋技術の恩恵を隅々まで行き渡らせるしくみが必要。

3. ベーシックインカムの可能性

・未来においてB Iが必要な理由：

市場経済では評価されないことに従事する人々にも生活のための給付がなされるべき。

・今、B Iが必要な理由：

「望ましい未来」への過渡期において、経済発展のスピードを維持し、資本主義のルールを変えない範囲で、さまざまに齟齬が出てくる社会の前進的なアップデートのために必要。

・今、日本でB Iが必要な理由：

人手不足の日本では、所得補償としてのB Iは不要。一律現金給付によるイノベーションの喚起が重要。

4. 現在みられる課題解決策とその問題点

- ・ 現行の社会保障制度は人口増と経済成長が前提。
- ・ 日本の経済政策の対象は個人ではなく大企業。
- ・ B Iは既に諸外国で実験済だが、期限付、あるいは対象者限定が多い。
- ・ 実現可能性に乏しく、イメージ先行のB I論が多数。

5. 提言

- 年金と医療費には手を付けず、その他の社会保障システムの資源を、一律給付で個人が使用方法を選択できるB Iへと移行することで、多様な不安に対応。同時に新たに生まれる余暇時間で、イノベーション創出に繋がる活動を期待。
- 財源との整合性を鑑みながら、給付の方式は現金給付と、中央銀行発行のデジタル通貨（通貨発行や流通コストの削減、ユーザーの利便性の向上による経済の好循環を期待）による給付を組み合わせる。
- 制度開始時点は月額3.3－4.3万円だが、制度開始後の金額増加も視野に入れる。
- デジタル通貨システムの詳細設計、生活可能な水準のB I実現への道筋は今後の課題。

（作成：事務局）